

- 目 的**：区内の地域福祉に関連する市民・団体・施設等の関係者が集い、具体的な課題解決の検討・実験プロジェクトの実施を通じて、官民協働による地域福祉の向上に資する基盤づくりを行う。
- 内 容**：区内の市民・団体・施設等の関係者を対象に、「みんなが先生、みんなが生徒」という『めだかの学校』精神で、地域福祉の具体的な課題解決に向けた検討会・実験プロジェクトを展開し、それを共有する場を設ける。

### 【平成25年度事業の基本方針】

#### ●昨年度事業の成果の普及・浸透を図る。

- 昨年度実施した「江南区・ささえあいマップづくり」「学生ボランティア・マッチング」という2つの実験プロジェクトについて、その成果を区内に普及・浸透させていくための取り組みを展開する。

#### ●「子育て支援」分野の取り組みをに着手する。

- 福祉の学び舎事業においては、「子育て支援」分野の取り組みは、あまり行われていなかった。この要因として、「問題・課題が多岐に渡り、どこにスポットを当ててよいのかがわからない」「子育て世代の住民は皆忙しく、人集めに苦労する」などが挙げられる。
- 今年度は、実施上の諸課題を十分に考慮しながら、「子育て支援」分野についての事業を進めていくための足がかりを築いていく。

### 【具体的な事業内容】

#### 1. 実験プロジェクトの実施（2プロジェクト）

##### ①江南区ささえあいマップづくりの実験実施【継続】

【目 的】 ささえあいマップづくりの取り組みを広げていくために、団体・地区に応じた進め方・やり方を模索し、江南区流のマップづくり手法を開発する。

【内 容】 実験的にマップづくりを実施する地区を2～3カ所程度選定し、実際にマップづくりを実施する。

・自治会単位だけでなく、いきいきサロン等での実施も視野に入れて実施地区の選定を行う。

・マップづくりの時間を短縮し、効率的な進め方を検討する。

（例：2回で3時間（1.5時間/回）プログラム）

【成果物】 （仮）江南区ささえあいマップづくりマニュアル

【備 考】 マニュアル作成にあたっては、企画運営委員会等で内容を協議する。

##### ②学生ボランティア・マッチングプロジェクト【継続】

【目 的】 区内の地域福祉の現場に学生ボランティアが定期的に訪れるような仕組みを検討・実施する。

【内 容】 学生ボランティア派遣の仕組み化に向けて、大学関係者からも参画してもらい、より踏み込んだ検討を行う。

<検討テーマ>

- ・ ボランティアサークルだけでなく、ゼミ・研究室・授業と連携するなど、継続性のあるボランティア派遣の仕組みとは？

<進め方>

- 1) 新潟市近郊にある大学・専門学校の担当者へのヒアリング
- 2) 検討会議の開催（3回程度）

【成果物】 学生ボランティアに来てもらうための手順・留意点等の解説や各大学の連絡先一覧などの情報を掲載したミニ冊子を作成し、区内関係者に配布する。

## 2. 子育て支援に関するグループインタビュー&ミニ茶話会の開催

- ・ 「子育て支援」を重点テーマとして掲げ、その関係者・当事者から「江南区内において取り組むべき課題・事業アイデア」について、グループインタビュー及び意見交換を行う。
- ・ 今年度は「未就学児」を持つ親への支援を中心に、事業を展開する。

【ねらい】

- ・ 当事者・関係者から生の声を聞きながら、子育て支援に関する区内の現状と課題・ニーズを整理・把握することで、次年度の実験プロジェクトにつながる題材を探る。

【内容】

- ・ 子育て支援に関連する方々（受益者／支援者（行政担当者を含む）の双方）へのグループインタビューを行う（形式を変えて2回程度開催）。
- ・ 子育て支援関係者だけではなく、子育て支援に関心のある地域住民同士での意見交換を行う（ミニ茶話会形式で1回開催）。

<開催イメージ>

●受益者へのグループインタビュー（支援対象側のニーズ把握）

→未就学児を抱える親が集まる場所（かめっこ広場など）に、こちらから出向いてのインタビュー調査

→1回20～30分程度／1日に複数回実施／1回4～5名程度で実施

●支援者側へのグループインタビュー（支援者側のニーズや課題の把握）

→関係者（子育て支援施設職員・保健師・保育士・民生委員など）に集まってもら形式でのグループインタビュー

→他の会議に+αで実施することも可

→30～40分程度／6～7名程度で実施

●子育て支援に関心のある地域住民同士での意見交換（ミニ茶話会）

→多様な立場・分野の連携による「子育て支援」の種を探すことがねらい

→公募で参加者を募る形式のミニ茶話会

→第1～2回出席者にも参加の呼びかけを行う

→1時間半程度／10～20名程度

## 3. 福祉関係者による情報・意見交換会の開催（1回）

- ・ ミニ茶話会や実験プロジェクトの成果報告を行いながら、今後に向けた意見・情報交換を第8回福祉のネットワークづくり交流会（H26.2開催）として開催する。

#### 4. まなびやニュースの発行（1回）

- 福祉の学び舎事業の取り組みを周知するための広報紙を発行する。

#### 【平成 25 年度事業の成果が 26 年度以降にどう活かされるのか？】

##### ● ささえあいマップづくりを自主的に行う地区を増やす。

- 「(仮) 江南区ささえあいマップづくりマニュアル」の作成・配布により、区内の各所で自主的にマップづくりを行う地区を増加させ、これをきっかけに自治会が中心となった地域福祉課題の解決に向けた取り組みを促進させる。

→自治会が中心となった地域課題解決の自主的な取り組みを増やす。

##### ● 地域福祉の現場と大学・学生との結びつきを強化する。

- ミニ冊子の作成・配布により、区内の地域福祉の現場と大学（学生ボランティアサークルを含む）との連携を促す。

→自発的に大学・学生との連携を実施する団体・施設等を増やす。